

整理番号：shiraishicalcium- 1 4

作成日：2024 年 1 月 30 日

安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

製品名：粉末生石灰

会社名：全国農業協同組合連合会

住所：東京都千代田区大手町一丁目 3 番 1 号 JA ビル 33F

担当部門：耕種資材部

電話番号：03-6271-8285

FAX 番号：03-5218-2536

緊急連絡先：03-6271-8285

本製品に関するその他の情報については、次ページ以降の安全データシート（SDS）「粉末生石灰」（白石カルシウム株式会社作成）を参照してください。

1. 化学品及び会社情報

製品名 粉末生石灰
供給者の会社名称 白石カルシウム株式会社
住所 東京都中央区京橋1-11-1
担当部門 営業本部 食品アグリ資材グループ
電話番号 03-3538-2354
FAX番号 03-3535-6514
e-mailアドレス
推奨用途及び
使用上の制限 農薬用

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性：

・爆発物	分類できない
・可燃性ガス	区分に該当しない
・エアゾール	区分に該当しない
・酸化性ガス	区分に該当しない
・高圧ガス	区分に該当しない
・引火性液体	区分に該当しない
・可燃性固体	分類できない
・自己反応性化学品	分類できない
・自然発火性液体	区分に該当しない
・自然発火性固体	分類できない
・自己発熱性化学品	分類できない
・水反応可燃性化学品	分類できない
・酸化性液体	区分に該当しない
・酸化性固体	分類できない
・有機過氧化物	分類できない
・金属腐食性化学品	分類できない
・鈍性化爆発物	分類できない

健康有害性：

・急性毒性（経口）	区分に該当しない
・急性毒性（経皮）	分類できない
・急性毒性（吸入）	（気体、蒸気）区分に該当しない （粉塵、ミスト）分類できない
・皮膚腐食性／刺激性	区分2
・眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
・呼吸器感作性	分類できない
・皮膚感作性	分類できない
・生殖細胞変異原性	分類できない
・発がん性	分類できない
・生殖毒性	分類できない
・授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない
・特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器）
・特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（呼吸器）
・誤えん有害性	分類できない

環境有害性：

・水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
・水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
・オゾン層への有害性	分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

危険有害性情報：

H312
H318

危険

皮膚に接触すると有害
重篤な眼の損傷

注意書き：	H370	臓器の障害
	【安全対策】	P264 取扱後は手をよく洗うこと。 P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 P280 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用 すること。
【応急措置】	P301+P316	飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡 すること。
	P302+P352	皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
	P304+P340	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させるこ と。
	P305+P351+ P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次 にコンタクトレンズを着用し ていて容易に外せる 場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	P332+P317	皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当てを受けること。
	P337+P317	眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当てを受けること。
【保管】	P403+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいと ころに置くこと。
【廃棄】	P501	内容物/容器を国、地方自治体などの規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別： 単一物質
化学名又は一般名： 酸化カルシウム
慣用名又は別名：
成分及び濃度又は濃度範囲：

成分名	濃度(%)	官報公示整理番号	CAS RN
生石灰	100	(1)－189	130578-8

GHS分類に寄与する成分： なし

4. 応急措置

吸入した場合： ・被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させるこ
と。
・気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合： ・皮膚を速やかに洗浄すること。

眼に入った場合： ・水で数分間注意深く洗うこと。
・眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合： ・口をすすぐこと。
・気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤： ・周辺の状況や火災の状況に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化
炭素を使用する。

使ってはならない消火剤： ・火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水进行を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護具及び緊急時
措置： ・直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
・関係者以外の立入りを禁止する。
・作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用
し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項： 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意す
る。

封じ込め及び浄化の方法及び機材： 粉じんが飛散しないよう真空中で吸い取るなどの方法で取り除く。集めた漏出物
は密閉できる容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い： ・技術的対策
・「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用す

- ・安全取扱注意事項
・接触回避
- 保管：
・安全な保管条件
・安全な容器包装材料

- みだりに粉じんが発生しないように取り扱う。
・「10. 安定性及び反応性」を参照。
- ・直射日光を避け、密封して冷暗所に保管すること。
・包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度：

成分名	濃度 (%)	粉じんの許容濃度 日本産業衛生学会 (2017年)	ACGIH (2015年)
酸化カルシウム	100	設定されていない	TLV2mg/m ³ (TWA)

保護具：

- ・呼吸用保護具
・手の保護具
・眼、顔面の保護具
・皮膚及び身体保護具
- 防じんマスクを着用。
ゴム手袋を着用。
ゴーグルを着用。
保護衣を着用。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：	固体(粉末状)
色：	白色
臭い：	無臭
融点／凝固点：	2572℃
沸点又は初留点及び沸騰範囲：	2850℃
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界：	データなし
引火点：	データなし
自然発火点：	不燃性
分解温度：	データなし
pH：	12.8(飽和水溶液)
動粘性率	データなし
溶解度：	水に溶け水酸化カルシウムを生成し、大量の熱を発生
n-オクタノール／水分配係数：	データなし
蒸気圧：	データなし
密度及び／又は相対密度：	3.32～3.35
相対ガス密度：	データなし
粒子特性：	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性：	通常の手扱い条件では安定。
化学的安定性：	水と反応
危険有害反応可能性：	825℃以上で分解し、酸化カルシウムと炭酸ガスを発生
避けるべき条件：	雨等がかかる場所での保管
混触危険物質：	水
危険有害な分解生成物：	水酸化カルシウム、熱

11. 有害性情報

急性毒性：	経口毒性 DL50:ラットのLD50値として、5,000 mg/kg、5,916 mg/kg (食品安全委員会添加物評価書(2013))の報告に基づき、区分外
皮膚腐食性／刺激性：	湿った皮膚に対して強い刺激性を示すとの記載 (ACGIH (7th, 2001)) から区分2とした。区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	湿った皮膚に対して強い刺激性を示すとの記載 (ACGIH (7th, 2001)) から区分2とした。区分2とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データなし

生殖細胞変異原性：	データなし
発がん性：	データなし
生殖毒性：	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：	本物質は水と反応して水酸化カルシウムを生じる。 ヒトでは大量の水酸化カルシウムの短時間ばく露により肺水腫とショックを起こすとの記載がある(PATTY (4th, 1993))。以上より区分1(呼吸器)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)：	ヒトにおいて、生石灰の吸入による呼吸経路の炎症、鼻中隔の潰瘍及び穿孔の報告がある(ACGIH (7th, 2001))。したがって、区分1(呼吸器)とした。
誤えん有害性：	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性：	魚類(コイ)の96時間LC50=1,070 mg/L (IUCLID、2000) から、区分外とした。
残留性・分解性：	データなし
生体蓄積性：	データなし
土壌中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、必須 関連法規ならびに自治体の条例に従って適切に処理する。
かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクル
に関する情報：

14. 輸送上の注意

国連番号：1910	
品名(国連輸送名)	CALCIUM OXIDE
国連分類	8
容器等級	III
海洋汚染物質	該当なし
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質：	該当なし
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：	水濡れ、吸湿、破れ、荷崩れ、落下がないように注意する。
国内規制：	
・陸上輸送	消防法の以下の規則に従う。貯蔵等の届出を要する物質(法第9条の3・危険物令第1条)
・海上輸送	船舶安全法の以下の規則に従う。腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
・航空輸送	該当なし

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法：	該当なし
労働安全衛生法(安衛法)：	名称等を表示すべき危険有害物(法第57条施行令第18条別表第9)名称等を通知すべき危険有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第57条の3)
毒物及び劇物取締法(劇毒法)：	該当なし
火薬類取締法：	該当なし
高圧ガス保安法：	該当なし
消防法：	貯蔵等の届出を要する物質(法第9条の3・危険物令第1条の10)

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)：	該当なし
船舶安全法：	腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法：	腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律(海防法)：	該当なし
じん肺法：	該当なし
外為法：	該当なし
輸出貿易管理令：	1-16項に該当

16. その他の情報

本データシートは化学工業用の一般的な取扱いに際しての安全な取扱いについて情報を集めたものであり、保証値ではありません。新たな情報を入手した場合、随時改訂します。他の化学品との混合や、特殊な条件で使用する場合は、安全性を確認してください。

本書はJIS Z 7252:2019およびJIS Z 7253:2019に基づき編纂しました。